



学長 磯貝 彰

受験生の皆さんへ 「奈良先端大の歴史を、一緒につくろう」

いま、どの大学院に進もうかと考えている皆さん、ぜひ、奈良先端科学技術大学院大学を一度見に来てください。いつでも本学の教員や先輩が案内します。

この大学に入学するには、皆さんが、これまで大学でどんなことを学んできたのか、今どんなことをしているのかは、全く関係がありません。大学院に入るといことは、自分自身の未来への投資です。これからの科学や科学技術に興味があり、それを学修することによって、人として成長し、社会に貢献したいと考えている人ならば誰でも歓迎です。この大学には、海外も含め、色々なところから、色々な人々が集まってきます。それが本学の一つの大きな特徴です。これからはそうした多様性がとても大事になる時代です。学部のない本学では皆さんはみな一緒に、新しい環境での学生生活を始めることになります。その中で、これまでの専門を活かして行くのもよし、新たな分野に挑戦するもよし、でしょう。そして、その過程で、良き仲間、良き教師を見つけることが出来れば、皆さんの一生の財産となります。

この大学には、21世紀の日本にとって、たいへん重要な分野である、情報、バイオ、ナノテクの分野を担う3つの研究科があります。そこにはそれぞれ、きわめて高い研究力をもった教員が集まっています。そしてこの3分野を基盤とした融合的な新しい分野にも挑戦しています。その成果や評判などは、皆さんも新聞などで見たこともあるでしょう。これは、大学院大学としてはたいへん重要なことだと思っています。あの山中伸弥先生も、本学でiPS細胞へ向けての研究を始められ、それがいま大きな成果として実っています。こうした高い研究力を背景にした、組織的・体系的な教育システムが本学の特徴で、皆さんは世界の第一線の研究の場を体験することができます。海外との交流なども盛んで、多くの学生が海外の大学で研修し、また、国際学会などに出席しています。このように研究教育環境が優れているばかりでなく、学生生活を経済的に支援する制度も、日本の中で最高のものであると言えるほど整っています。こうした本学の研究教育の活動は、文部科学省でもたいへん高く評価され、2009年度までの6年間の総合評価で、86ある国立大学法人のうちの第1位とされました。本学の活動がこのように高く評価されたことはうれしいことです。

大学の基本的な機能は「知の創造」と「知の伝承」であると言われる。また、教育に対応する言葉は学修です。さらに、学生は、教員、職員と並んで、大学を構成する大事な要素です。決して単なるお客さんではありません。皆さんと、教育—学修する中で、皆さん自身の人間力がレベルアップすると共に、大学としての「知の創造」と「知の伝承」を実現して行くことが、「大学である」ということだと思っています。これからの社会—持続可能な社会—の成り立ちには、高い科学力あるいは科学技術力を持ち、また、高い人間力を持った人たちが数多く、社会の多様な場で活躍することが必要です。私達は、そうした人たちを育てて、社会に貢献していきたいと思っています。

本学では、1991年の創設以来これまでに、修士課程修了者約5,000名、博士課程修了者約1,000名を社会に送り出しています。そしてそれぞれが、今、社会の色々な分野で活躍しています。彼らは本学の大事な財産で、今もこの大学の歴史を作っています。本年10月に本学は創立20周年を迎え、また新たな20年の歴史を作っていこうとしています。新しい大学だからこそ、これからの新しい歴史に重みがあるのです。皆さんも、この奈良先端科学技術大学院大学の歴史づくりに参加してみませんか。夢のある活動ですよ。



奈良先端大はあなたの未来を拓きます！

<p>目的</p>	<p>奈良先端科学技術大学院大学（NAIST）は、学部を置かない大学院大学として、最先端の研究を推進するとともに、その成果に基づく高度な教育により人材を養成し、科学技術の進歩と社会の発展に寄与します。</p>
<p>教育使命</p>	<p>奈良先端大は、先端科学技術の発展に資する人材を養成するために、学部を置かない大学院大学として平成3年10月に設置されました。NAISTの研究教育分野は、「情報科学」「バイオサイエンス」および「物質創成科学」の3つの基盤的な学問領域です。</p> <p>21世紀における人類の豊かな生活と住みよい社会を実現し、持続していくためには、次代を担う人材を養成し、人類の存続に役立つ多様な研究成果を社会に提供することが不可欠です。そのためには、単に科学技術に精通するだけでなく、大局的な視点をあわせ持つ人材を育成する全人的な教育が必要です。</p> <p>本学では、「情報科学」「バイオサイエンス」および「物質創成科学」という先端科学技術の基盤的な学問領域に加え、それらの融合領域の研究教育、また倫理教育や知的財産教育などにも積極的に取り組んでいます。</p>
<p>人材養成目的</p>	<p>体系的な授業カリキュラムと研究活動を通じて、博士前期課程では、社会・経済を支える高度な専門性を持ち、社会において指導的な立場に立てる人材を、博士後期課程では、科学技術に高い志を持って挑戦し、国際社会で指導的な役割を果たす研究者・技術者を養成します。</p>
<p>教育方針</p>	<p>専門教育カリキュラムに加えて、人間として備えておくべき倫理観、広い視野、理論的な思考力、積極的な行動力、総合的な判断力、さらには豊かな言語表現能力を養う、教育カリキュラムを実施します。</p> <p>また、新たな融合領域へ挑戦する人材を養成するための、3研究科が連携した教育プログラム、高度な国際性を養成するための、海外の教育研究連携校との共同プログラムを含む、教育プログラムを実施します。</p> <p>そして、自己評価や外部評価をフィードバックして、常に教育の質の向上を図ると共に、教育研究環境の充実と優秀な学生の経済的支援を進めます。</p>
<p>全学の アドミッションポリシー (入学者受入れ方針)</p>	<p>国内外を問わず、また大学での専攻にとらわれず、高い基礎学力をもった学生あるいは社会で活躍中の研究者・技術者などで、将来に対する明確な目標と志、各々の研究分野に対する強い興味と意欲をもった者を積極的に受け入れます。</p>